

1. 科目名 (単位数)	発達心理学 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP2342
2. 授業担当教員	水谷 聡秀		SSMP2342
4. 授業形態	講義、ディスカッション、グループ討議・発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	「心理学入門」「心理学概論」を履修していることが望ましい。		
7. 講義概要	今日の発達心理学は、人間の受精から死までを扱う「生涯発達心理学」を意味する。本講義では、最初に発達の全体的なプロセスやメカニズムについて、概観する。そして、身体、認知、感情、言語、社会性など、それぞれの機能がどのように発達していくか、考えたい。また、現代の少子高齢化社会や情報社会特有の問題と発達との関係、幼児や児童、生徒の心身の発達を踏まえて、主体的な学びをさせる指導法、関わり方についても講義、ディスカッション等を行いながら、学習を進めていく。		
8. 学習目標	(1) 発達の過程および特徴を理解するための基本的な概念および代表的な理論を理解し、説明ができる。 (2) 発達の機能的側面から、そのメカニズムを理解することにより、幼児や児童・生徒の学習を支える指導の基本的知識と視点を持ち、さまざまな発達の問題に対処できる。 (3) 学習内容を自分の発達問題として捉え、応用できるようにすることを通して、幼児や児童・生徒の主体的な学びを保障するあり方を体得できる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	・事前学習、事後学習に努めること。 ・2回レポートを課す。(A 4 用紙 2 枚、2,400 字以上) ①児童期の問題 (虐待、いじめ、不登校など) ②青年期の問題 (モラトリアム、摂食障害、アパシー、ひきこもりなど)		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 林洋一 (監修) 『最新図解 よくわかる発達心理学』ナツメ社、2023。 【参考書】 高橋一公・中川佳子 (編著) 『発達心理学 15 講』北大路書房、2019。 松原達也 (編) 『発達心理学—健やかな幸せな発達をめざして』丸善出版、2015。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 (1) 発達の過程および特徴を理解するための基本的な概念および代表的な理論を理解し、説明ができる。 (2) 発達の機能的側面から、そのメカニズムを理解することにより、幼児や児童・生徒の学習を支える指導の基本的知識と視点を持ち、さまざまな発達の問題に対処できる。 (3) 学習内容を自分の発達問題として捉え、応用できるようにすることを通して、幼児や児童・生徒の主体的な学びを保障するあり方を体得できる。 ○評定の方法 ・試験・小テスト等 40% ・レポート等課題研究 20% ・平常点 (授業態度、ディスカッションへの参加、発表、発言) 40% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	・本講義を通じて、発達心理学に関する基本的な知識を、単にテキストから学ぶだけでなく、自ら考え、調べ、他者との意見交換を通じながら、身につけること。 ・事前に該当頁を必ず読み、分からない言葉・用語・概念などを調べて、授業に臨むこと。 ・討議を毎回取り入れるので、積極的に発言すること。 ・授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。 ・他の受講生の学習に迷惑をかける行為 (携帯電話の操作、私語、居眠り、グループ活動に協力しない等) をしないこと。		
13. オフィスアワー	原則週に 2 コマを第 1 回の講義の際に指示をする。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション 【発達とは】 発達心理学における発達とは	事前学習	テキスト pp. 1~29 を読んで、発達心理学とは何かについて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	生涯発達のイメージをつくる。
第 2 回	【胎児期・新生児期】 脳の発達、生理的微笑、視覚、気質	事前学習	テキスト pp. 30~49 を読んで、胎児期・新生児期について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	新生児期の「原始反射」などについて参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 3 回	【乳児期】 情緒、社会性、愛着、喃語	事前学習	テキスト pp. 50~73 を読んで、乳児期について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	乳児期の「思考の発達」などについて参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 4 回	【幼児期 I】 ことばの発達、読み書き、遊びと発達	事前学習	テキスト pp. 74~91 を読んで、幼児期について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	幼児期の「脳とからだ」などについて参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第 5 回	【幼児期 II】 自己認知、人格、困った行動、友人関係	事前学習	テキスト pp. 114~135 を読んで、幼児期について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	幼児期の「情緒の発達」などについて参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。

第6回	小テストと解説	事前学習	胎児期から幼児期までの復習をする。
		事後学習	これまでの学習内容を振り返り、発達の連続性を確認する。レポートを作成し、発表の準備をする。
第7回	レポート発表	事前学習	自ら設定したテーマについて参考文献を調べながらレポートを作成する。
		事後学習	指摘された点について再考すること。
第8回	【児童期】 思考の発達、働きかけ、友人関係、ネット依存	事前学習	テキスト pp. 136～157 を読んで、児童期について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「ネット依存」などについて参考書（教科書では pp. 150～151）などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第9回	【青年期】 自尊心、青年期の壁、親子関係	事前学習	テキスト pp. 158～181 を読んで、青年期の問題について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「友人関係」などについて参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第10回	ワーク（アイデンティティの形成）	事前学習	アイデンティティについて調べて理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「アイデンティティ形成」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第11回	【成人期】 仕事、親の発達、中年期の危機	事前学習	テキスト pp. 196～215 を読んで、成人期について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「結婚」「親の介護」などについて参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第12回	【高齢期】 加齢に伴う心身変化、生きがい、認知症、死の受容	事前学習	テキスト pp. 216～227 を読んで、高齢期について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「高齢期の孤独」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第13回	【発達障害】 発達障害とは、自閉スペクトラム症、ADHD、LD	事前学習	テキスト pp. 92～111 を読んで、発達障害について理解し、疑問点を明確にする。
		事後学習	「大人の発達障害」について参考書などでさらに調べて、理解した内容をノートにまとめる。
第14回	小テストと解説	事前学習	児童期から高齢期期、発達障害までの復習をする。
		事後学習	これまでの学習内容を振り返り、発達の連続性を確認する。レポートを作成し、発表の準備をする。
第15回	レポート発表、全体のまとめ	事前学習	自ら設定したテーマについて参考文献を調べながらレポートを作成する
		事後学習	発達の本質について考察する。